

未来をつくる実践目標

チャレンジ2025

【年度実績】

(令和7年度 主要政策)



令和8年5月

福井県

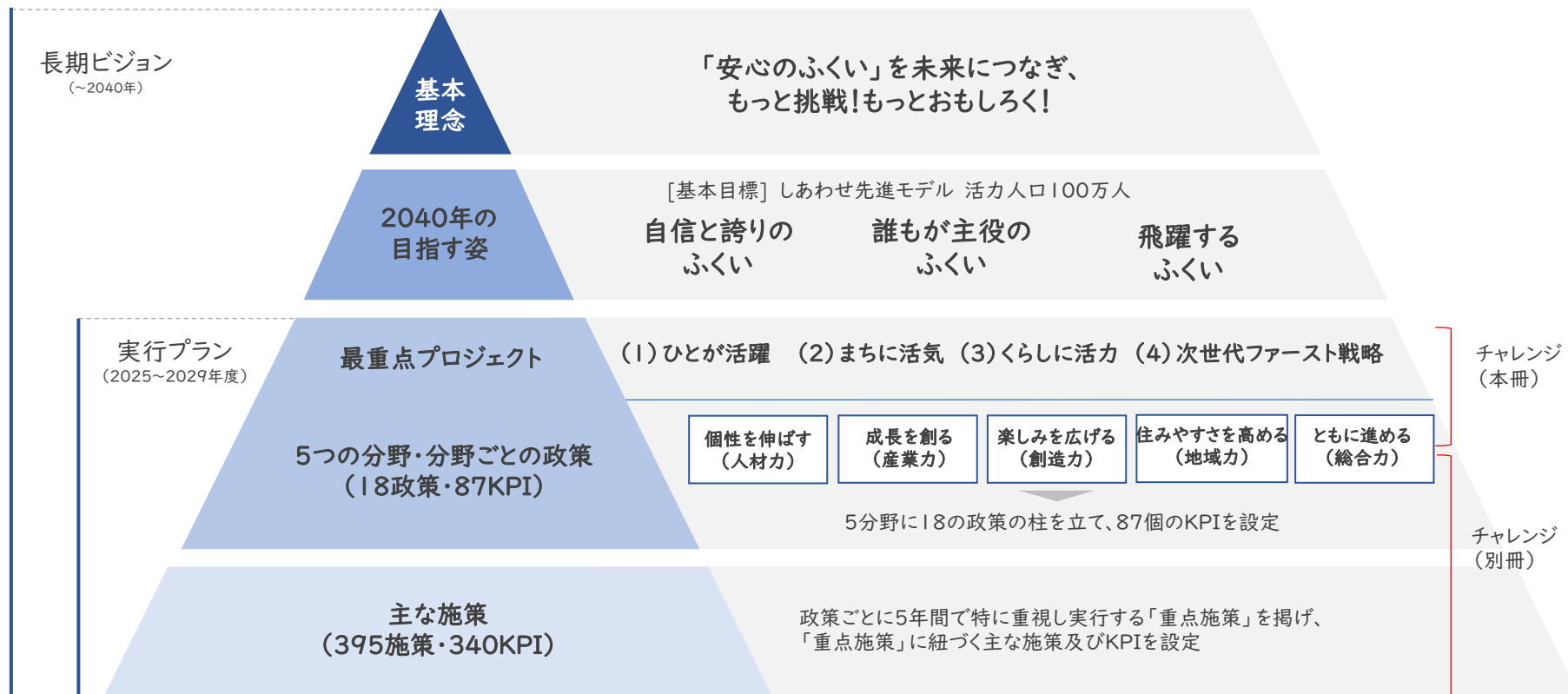
はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。今回、令和7年度の進捗状況および政策の成果をとりまとめました。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、徹底した県民目線で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(参考) 長期ビジョンの体系図



目次

令和7年度の結果概要・・・・・・・・・・・・・4

令和7年度の主な成果・・・・・・・・・・・・・5

実行プラン（2025～2029年度）最重点プロジェクト

（1）ひとが活躍・・・・・・・・・・・・・9

（2）まちに活気・・・・・・・・・・・・・11

（3）暮らしに活力・・・・・・・・・・・・・14

（4）次世代ファースト戦略・・・・・・・・・・・・・16

各分野の主要政策別 令和7年度の主な成果・・・・・・・・・・・・・18

《巻末資料》

未来をつくる実践目標「チャレンジ2025」の
結果概要について・・・・・・・・・・・・・39

令和7年度 分野別の主要政策（別冊）

I 個性を伸ばす（人材力）

政策1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を
育む教育の推進・・・・・・・・・・・・・4

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり・・・・・・・・・・・・・11

政策3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現・・・・・・・・・・・・・15

政策4 こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ
「ふく育県」の推進・・・・・・・・・・・・・21

II 成長を創る（産業力）

政策5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化・・・・・・・・・・・・・26

政策6 創業・新事業展開の推進・・・・・・・・・・・・・33

政策7 未来志向型の産業革新・・・・・・・・・・・・・36

政策8 世界のふくいファンを拡大・・・・・・・・・・・・・42

III 楽しみを広げる（創造力）

政策9 北陸新幹線効果を最大化・持続化・・・・・・・・・・・・・46

政策10 交流を広げる基盤整備・・・・・・・・・・・・・52

政策11 ふくい型移住・定住の促進・・・・・・・・・・・・・59

政策12 文化芸術・スポーツ力の強化・・・・・・・・・・・・・66

IV 住みやすさを高める（地域力）

政策13 人生100年時代の充実生活応援・・・・・・・・・・・・・74

政策14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の
充実・・・・・・・・・・・・・78

政策15 豊かで美しいふくいの環境の継承・・・・・・・・・・・・・84

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現・・・・・・・・・・・・・90

V ともに進める（総合力）

政策17 「チームふくい」の行政運営・・・・・・・・・・・・・97

政策18 広域連携の強化・・・・・・・・・・・・・102

※項目については、長期ビジョンの体系で整理しています。

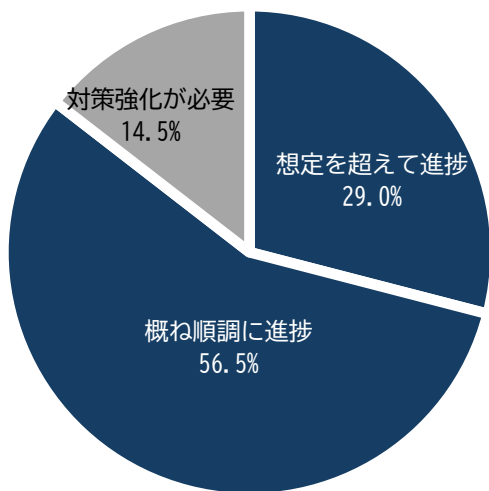
令和7年度の結果概要

- 長期ビジョン 実行プラン(R7~11)のKPI(87項目)のR7年度時点の達成率(※)は**85.5%**
(参考:前実行プラン(R2~6)に基づくR6年度の達成率は88.6%)
- チャレンジ2025 実践目標KPI(340項目)の達成率は**83.8%**で、前年度比**▲0.1%**

※達成率:「想定を超えて進捗」と「概ね順調に進捗」の合計(判断時期未到来の指標を除いて算出)

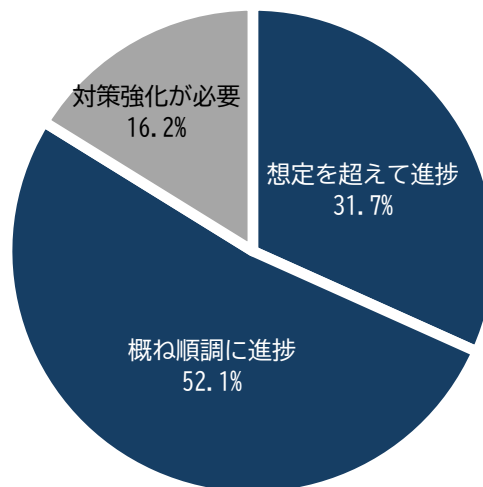
長期ビジョン実行プランKPI

※長期ビジョン改定時(2025.3)に5年間の目標を設定



チャレンジ2025実践目標KPI

※年度当初に当該年度(1年間)の目標を設定



内容	判断基準
想定を超えて進捗	110%超
概ね順調に進捗	90~110%
対策強化が必要	90%未満

<目標を達成した主なチャレンジ2025 実践目標KPI>

指標	目標値	実績	達成率
心く育サービス利用件数	3,000件	4,861件	162.0%
県が支援する研究開発や本社機能を有する立地決定件数	10件	16件	160.0%
県外学生等が新たな視点や発想を地域課題解決に活かす長期滞在型キャンプの参加人数	120人	153人	127.5%

指標	目標値	実績	達成率
FUKUIRAYS観客動員数(ホームゲーム平均数の合計)	5,000人	6,495人	129.9%
生きがいきづくり活動を行うシニアグループへの支援数	70団体	87団体	124.3%
脱炭素・省エネに取り組む事業者数	430件	624件	145.1%

令和7年度の主な成果

長期ビジョンの着実な推進

魅力ある大学づくり

県立大学では、令和8年4月の「地域政策学部」開設に向けて入学者選抜を実施した結果、一般選抜前期日程の倍率は7.0倍となり、高い注目を集めました。

また、県内高校から県内大学へ進学する学生を対象に、一人暮らしの家賃や通学の交通費への支援を行うとともに、地域枠を拡充し、県内進学を促進しました。



福井まちなかキャンパス（イメージ）

「ふく育県」のさらなる深化

ふく育さんやふく育タクシーの共通利用券を、新生児世帯や育児負担の大きな世帯など計4,665世帯に配付し、利用者の負担軽減を図りました。また、訪問型シッターサービスの助成を拡充し、「ふく育さん」の利用実績が過去最高の3,410件となるなど、多くの子育て世帯に利用されました。



「ふく育さん」利用の様子

子どもが主役の教育

教育長が講師となり、福井の未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」を、県立高校19校で開催しました。また、休日の中学校部活動の地域移行を推進するため、関係者との連絡調整等を行う県総括コーディネーターを配置し市町の取組みを支援するとともに、地域の指導者を対象とした指導者研修会を開催し、90%の部活動において休日部活動の地域移行を達成しました。



地域デザイン講座の様子

恋愛から結婚までの切れ目ない応援

若者の恋愛応援サイトの開設や、地域おこし協力隊・県支援団体による若者交流イベントの実施により、延べ348人の出会いを創出した。また、「ふく恋」AIマッチングシステムの活用により、累計成婚件数は100組に到達し、成婚件数は36組と過去最高の件数を記録しました。



ふく恋成婚100組セレモニー

いいとこ、掘りだくさん。

本県の魅力発信の新たなキャッチコピーを「いいとこ、掘りだくさん。」に決定しました。掘れば掘るほど魅力が溢れてくる福井らしさを表現しており、県民のみなさまにも活用いただき、ともに福井を盛り上げていきます。

また、海外から観光客を呼び込むため多言語観光情報サイト「DISCOVER FUKUI」を10月に全面刷新しました。



新ロゴマーク

若狭湾プレミアムリゾート構想

県と市町が連携して嶺南地域に高級リゾートホテルやオーバルジュ等を公募で誘致する若狭湾プレミアムリゾート構想を進めています。第1回募集では小浜市、高浜町、若狭町の3か所の公募対象地において優先交渉権者を選定し、事業化に向けて協議・調整しています。引き続き、国内外から観光客を誘客できるリゾートエリアの形成を目指します。



エンゼルラインからの眺望（小浜市）

長期ビジョンの着実な推進

ユネスコ無形文化遺産登録

越前鳥の子紙が「和紙：日本の手漉和紙技術」として、12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。越前鳥の子紙は、越前市に伝承されている雁皮紙の製作技術であり、かすかに黄味を帯びた色合い、滑らかで光沢のある紙肌が特徴です。繊維の短い雁皮を均一な紙に漉きあげるには、高度な技術が求められます。



ユネスコ無形文化遺産登録を祝う様子

外国人材の県内定着

外国人労働者の受入れを支援するため、「FUKUI 外国人材受入サポートセンター」において、企業向け、外国人向け両方の相談に対応しています。また、外国人労働者の労働・生活環境改善に係る費用を63社に対して支援し、県内企業への定着を図りました。



サポートセンター ポスター

全国初！農林水産地方創生センター

官民共創による地域課題解決と付加価値向上を目指すプラットフォームとして、全国に先駆けて、7月に「福井県農林水産 地方創生センター」を設立しました。関係4市町が有機農業を核とした事業化を検討しており、小浜市についてはプロジェクトチームが始動しました。



福井県農林水産地方創生センター

原子力リサイクルビジネス

福井県内の原子力発電所のうち7基の廃炉が進んでいます。廃炉により発生する放射能レベルが極めて低い金属（クリアランス金属）の再利用を通じた産業振興を目指し、原子力リサイクルビジネスを行う新会社を8月に設立しました。事業実現に向けた準備やクリアランス制度の理解促進を今後も進めていきます。



会社設立時の看板かけ

建設DX

県内企業へのアンケート調査を行い、「福井県建設DX推進連絡協議会」の議論を踏まえ「福井県建設DX推進行動計画（2026～2030）」を策定しました。

ICT活用工事の拡大など建設DXを計画的に推進することにより、建設産業の担い手不足やインフラ施設の老朽化に対応していきます。



ICT活用工事 イメージ

地域防災力の向上

防災士を養成するため、嶺北と嶺南の県内2会場において、研修会（嶺北会場151名、嶺南会場144名）を実施しました。また、トイレトラックやトイレカーを導入し、県内で大規模な災害が発生した際に、全国各地から災害用トイレ車両の支援を受けられるネットワークに加盟しました。



トイレトラック

実行プラン(2025~2029 年度)

最重点プロジェクト

(1)ひとが活躍

誰もが自分らしさを発揮できる「安心の居場所」と「活躍の舞台」をもち、性別や世代などを超えて互いに交流や共感が広がる共生社会を形成します。

○一人ひとりが輝ける共生社会の実現

多様な価値観を尊重。アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）への気づきを含め、女性の意思決定の場への参画や外国人との共生など、性別・国籍・年齢・障がいの有無に関わらず、個性や能力を発揮できる社会を形成します。

- 企業や地域に根付く固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスへの気づきを促し、**県民一人ひとりが自分らしく活躍**できる社会づくりを推進

アンコンシャス・バイアスへの気づきを促すため、企業向け研修を開催し、2,072名が参加したほか、鯖江市と連携して自治会向けのセミナーを開催するなど、広く県民への周知を図りました。



地域向けセミナー

- 外国人の不安に寄り添い、同行して課題を解決する相談体制の強化などにより、**日本人と外国人の協力体制**を構築

「ふくい外国人相談センター」において、相談者への同行支援や関係機関との協議・連携を専門的に行う「総合支援コーディネーター」を2名配置し、相談体制を強化しました。相談対応件数は、のべ1,400件を超えました。



ふくい外国人相談センター

- フクシオンや農福連携により**新たな就労の選択肢や社会参加の場**を創出し、**工賃向上と自己実現を両立させた「幸せ就労」**の実現を推進

「福祉にアクションを!」を合言葉に、県内デザイナーと協力して、3事業所における高付加価値商品の開発を支援しました。また、ふくい農福ビジコンや農福連携地域交流会を開催し、農業分野における就労機会を拡大しました。



農福連携地域交流会

○全世代の活躍と世代を超えたつながりの拡大

つながり助け合う共助の力を強化。すべての世代にとって幸せな生涯活躍の場づくりを推進するとともに、誰もが安心の防災対策や医療福祉を充実します。

- シニア世代の居場所づくりや生きがいがづくりのため、**シニアグループ活動の応援**や**シニア応援文化祭**の開催

新たに生きがいがづくり活動等を行うシニアグループ87団体を支援したほか、ステージ発表や趣味の作品展を行う「シニア応援文化祭」を9月23日に実施し、シニア世代の活躍を促進しました。



ステージ発表

- 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域における**医療と介護の連携を強化**し、在宅ケアの需要の増加に対応できる体制を整備

各健康福祉センター圏域で、医療・介護現場の実務者や管理者が集まり、医療・介護連携に関する課題の共有や、各圏域の実情に応じた対応策について協議を行いました。



医療・介護の関係者による協議

- 県民向けの防災啓発研修の実施や、地域の防災リーダーとなる防災士の養成を進め、**地域防災力を強化**

10月4日(土)に地域防災力充実強化シンポジウムを開催。県民約240人が参加し、能登半島地震の事例を踏まえ、自助・共助が果たす役割を学びました。
また、防災士養成研修を実施し、295名が受講しました。



地域防災力強化充実シンポジウム

○地域への自信や愛着の醸成

歴史や文化、自然、産業など、福井らしさに触れ、考え、行動する機会を設計。一人ひとりの活動が地域の未来を創ると実感できる仕組みを拡大し、地域との関わりと人とのつながりを強化します。

- 県立大学に「**地域政策学部（仮称）**」を新設し、6学部6キャンパスの特性を活かした地域連携により魅力を向上

令和7年6月に文部科学省への設置届出が受理され、「地域政策学部」の設置が正式に決定。令和8年4月の学部開設に向け、学部棟「福井まちなかキャンパス」の設計、入学者選抜など、準備を進めました。



福井まちなかキャンパスイメージ

- 自分の将来や生き方を考える機会を提供する「**ライフデザイン教育**」を推進

教育長が講師となり、福井の未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」を、県立高校19校で開催しました。また、地域に関わる取組みを行う高校生を表彰する「高校生チャレンジアワード」について、107件（322名）の応募がありました。



地域デザイン講座

- 若者・子育て世代のUIターンのほか、地域と関わって活動・貢献する**関係人口を拡大**

地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげる取組みとして、県内地域において実施されている学生の長期滞在型キャンプを支援しました。



学生キャンプ活動発表会の様子

(2) まちに活気

変化をチャンスにチャレンジを拡大し、官民共創によるさらなる観光・まちづくりへの重点投資や新幹線効果の全域波及など、地域の未来への期待感を生み出す「持続的なまちの進化」を創出します。

○新幹線効果の最大化・持続化

新幹線開業や中部縦貫自動車道の整備を追い風に、観光・まちづくりへの官民投資を着実に展開。県内全域への波及効果やワクワク感の増大に向け、地域の個性を活かした魅力づくりを継続します。

■ 観光地のさらなる魅力づくりや多様な宿泊ニーズに応える上質な宿泊施設

への整備支援により、観光客の滞在時間伸長や満足度向上、観光消費額増加を推進

伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやペットと泊まれる宿、サイクリストに優しい宿等、多様な魅力的な宿泊施設整備を28件支援しました。



海を一望する上質な宿

■ 国別などターゲットに合わせた情報発信、近隣府県からの広域周遊観光、富裕層の受入環境づくりによるインバウンド誘客を促進

富裕層の誘客拡大とインバウンド観光消費の増加に向けて、眼鏡や伝統工芸など福井ならではの産業や文化等を活かした高付加価値コンテンツを新たに5件造成しました。



富裕層向け体験コンテンツ

■ 県都の玄関口である福井駅周辺エリアと、当面の終着駅となる敦賀駅周辺エリアにおいて、官民連携のまちづくりファンド等を活用しにぎわい創出とまちづくりを推進

福井駅周辺エリアでは「県都まちなか再生ファンド」で15件、敦賀駅周辺エリアでは「敦賀市まちづくりファンド」で20件の店舗改修・新規出店等を支援しました。



集合リノベーションを実施した複合商業施設

■ 地域の活性化につながるプロジェクト型のアート活動に対する相談・助言等の支援を強化

(公財)福井県文化振興事業団内に開設した「ふくい文化創造センター」に専門スタッフを配置し、アート活動実践者に対する助成(44件)に加え、助言・相談対応などの伴走支援を強化しました。伴走支援の件数はのべ400件を超えました。



「文化創造センター」のスタッフ

■ 豊かな自然を活用したアウトドアスポーツや手軽に楽しめるアーバンスポーツ等、幅広いスポーツを推進

自然のままの雪山を滑り、その技術を競う国際大会「フリーライドワールドツアー」や、スラックライン体験教室など、福井ならではの自然を活かしたスポーツ大会やイベントの開催等を支援しました。



フリーライドワールドツアー

○官民共創による地域活性化チャレンジの拡大

地元発のチャレンジの応援や県外からの投資・人材の呼び込みを拡大。官民共創モデルを構築するなど、民間企業のチャレンジの場としての魅力を高め、起業や成長産業立地を加速します。

■ マッチングイベント開催などにより県内外のスタートアップ企業と連携し、県内企業とスタートアップとの共創を促進

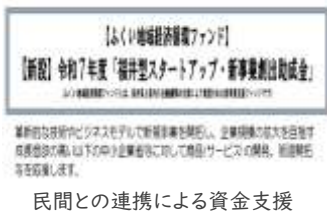
ドローン活用ディレクターが中心となり、民間インキュベーション施設にて、県内外のドローン関係者を集めたセミナーを4回開催し、共創を促進しました。



ドローン活用セミナー

- 民間の投資ファンド等と連携し、**高い成長が期待されるスタートアップ**に対して**積極的に資金を供給**

高い成長が見込まれる創業や革新的な技術やビジネスモデルで新規事業を開拓し、全国または海外展開を目指す企業18社に対して資金支援を行いました。



民間との連携による資金支援

- **本社機能の併設・拡張や都市圏並みの給与水準**などU・Iターン者や高度人材を呼び込む付加価値の高い企業の投資を促進

全国トップの手厚い支援制度をセールスポイントに年間約1,000件の企業訪問を実施したほか、「企業立地・港セミナーin 大阪」を開催するなど様々な機会を捉え、本県の強みをPRしました。この結果、高度人材やU・Iターン者の受け皿となる、本社機能や研究開発部門の拡張を伴う工場等の新增設案件16件が決定しました。



企業立地・港セミナーin 大阪

○産業の高付加価値化と基盤強化

脱炭素化や資源循環、海外展開の強化など、地域産業の付加価値や成長性を拡大。未来への投資を後押しし、社会的価値と経済成長を両立させ、「価値づくり産業」の創出をさらに促進します。

- 社会的に対応が求められる脱炭素や資源循環について、**ふくい**の**特性を活かした技術開発や体制構築**を進め、企業価値を向上

県内企業が製造する炭素繊維複合材料(CFRP)の次世代航空機エンジンへの採用を目指し、(株)IHIおよび産総研とともに設立した「連携研究ラボ」においてCFRPを軽量化・高度化する共同研究を行いました。



産業技術総合研究所
北陸デジタルものづくりセンター

- 条件の良い森林において林業事業者と森林所有者が契約を結び、効率的な主伐・再造林を行う「**ふくい型林業経営モデル**」により林業関係者への利益還元を促進

「ふくい型林業経営モデル」の集約エリアでは、施業地の確保や木材を運び出す道の改修など生産性向上に必要な取組みを支援し、対象エリアを14地区から33地区(累計)へと拡大しました。



現場条件の良い森林での主伐

- スマート技術の活用や最先端技術の導入、企業などの新規参入を促進することで、**養殖業の成長産業化**を実現

デジタル操業日誌やスマートCTD、定置網モニタリングシステムなどスマート技術導入を支援した結果、スマート技術を活用する水産経営体が36経営体から62経営体に増加しました。



船内でデジタル操業日誌のアプリを活用

- 船会社への継続的なポートセールスおよび新規航路運航船社への助成により**新規航路誘致**を加速

既設定期航路の増便や新規航路の誘致に向けて、取扱貨物量の増大を図るため、新たに敦賀港を利用する荷主や物流企業に対する支援メニューの充実、年間約500件の企業訪問を実施し、新たに12社が敦賀港を利用しました。



敦賀港の様子

- **海外にネットワークを有する機関等と連携**し、マッチングの場を創出する等により、県内事業者の輸出拡大を支援

在日フランス商工会議所と連携してネットワーキングイベントを開催し、県内企業13社が参加しました。また、眼鏡・繊維をテーマとしたウェビナーには、35名が参加しました。



ネットワーキングイベントの様子

■ 産地の職人と海外のバイヤー、デザイナーと協働で**海外需要を取り込む商品開発**を進め、海外での新たなファンを獲得

世界的なデザインの祭典ミラノデザインウィークやファエンツァで行われた陶器祭りに伝統工芸品を出展し、その魅力をPRしました。また、伝統工芸事業者とデザイナーが協働して現代のライフスタイルに合わせた新しい商品を14アイテム開発しました。



ミラノデザインウィーク出展の様子

■ 中部縦貫自動車道県内全線開通や舞鶴若狭自動車道4車線化、敦賀港拡張など**高速交通・物流ネットワーク**の整備を加速

中部縦貫自動車道の令和11年春県内全線開通、舞鶴若狭自動車道の早期4車線化に向け整備が着実に進められています。また、敦賀港鞠山南地区ユニットロードターミナルについて、早期完成に向けて国と共に整備を進めています。



中部縦貫自動車道大野油坂道路

(3) 暮らしに活力

デジタル・新技術の活用と人のつながりによる助け合いの力で、人口減少社会においても暮らしの質を高め、将来への明るい展望を描ける「日本一の幸せ実感社会」を実現します。

○幸せを実感できる「都会以上の生活水準」の実現

幸福度日本一の社会基盤のもと、福井で働き、暮らすことの利便性・快適性を向上。地域の絆を大切に、最新技術を活かしながら、全国トップレベルの暮らしの基盤と満足度をさらに高めます。

- 県民に登録いただいた属性情報や興味関心に合わせ、県・市町の情報を、必要な人に適切なときに**プッシュ型で案内**することにより、行政サービスの利便性を向上

県民の皆さま方へ、自治体実施する各種施策の情報を令和8年度から「プッシュ型」でお届けする仕組みの構築について、県内すべての市町と合意しました。



プッシュ型情報発信のイメージ

- 農村 RMO（農村型地域運営組織）の立ち上げに向けた地域ビジョンの策定や先行事例の調査、話し合いの場づくりなど、**農村 RMO の設立、運営**を後押し

全体研修会や現地ワークショップの開催、外部アドバイザーの派遣を行いながら、将来ビジョン策定などを支援した結果、農村 RMO のモデル育成地区が5地区から9地区に拡大しました。



現地ワークショップの開催

- 農村の住民が協力し農地の保全や耕作放棄地の発生抑制など、農業の多面的機能を発揮させるための**地域共同活動の継続**を応援

集落ぐるみで住民が協力して行う法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の補修、景観形成などを支援した結果、1,285 集落で共同活動が実践されました。



地域共同による水路の泥上げ作業

- 2050年のカーボンニュートラルに向け、省エネ住宅の普及促進や太陽光発電・蓄電池の導入拡大など、**脱炭素化**を推進

「ふくいエコはびねす住宅」の認証制度を創設するなど省エネ住宅の普及を図りました。また、省エネ家電購入応援キャンペーンを実施し、7,694件(R6:5,598件)の省エネ家電導入を支援したほか、住宅・企業への太陽光発電・蓄電池の設置を支援し、3,359kW(R6:2,394kW)の導入につなげるなど脱炭素化を推進しました。



工場屋根への太陽光発電設置

○自分らしい前向きな暮らし方の応援

安心して将来設計を描ける社会の構築。所得向上や働き方改革、社会全体での次世代応援により、仕事・結婚・子育てなど自分らしい生き方ができる環境づくりを進めます。

- 公正な賃金体系に基づく短時間正社員等の多様な働き方の導入促進や「社員ファースト企業」への支援により、**誰もが働きやすい職場環境づくり**を推進

働き方改革に取り組む「社員ファースト企業」について、新たに 460 社をポータルサイトにおいて紹介しました。好事例とともに支援策の情報を広く発信し、働きやすく働きがいのある職場環境づくりを後押ししました。



「社員ファースト企業」ポータルサイト

- こども・若者目線の自主的な挑戦や子育て世代への伴走支援に対する応援の強化等により、**社会全体でこども・子育てを応援**する地域づくりを推進

低出生体重児を支えるドナーミルクの啓発活動や、多胎育児当事者の支援、外国人との共生など、困難な状況に置かれたこども・若者や子育て世代に寄り添う活動を展開する県内11団体に応援金等を交付し、事業活動を支援しました。



多胎育児に関するピアサポーター養成講座の様子

- 共家事の促進や企業との連携による家事の外部化の促進などにより自分時間・家族時間などの「ゆとり時間」を創出し、誰もが自己実現を図る機運を醸成

共家事を促す動画の制作・放映や時短家事のアドバイスが受けられる診断サイトの作成、家事代行モニターキャンペーンなどの展開により、県民の「ゆとり時間」の創出を図りました。



共家事ロゴマーク

○生活密着サービスの維持向上

医療・介護・保育や農林漁業、建設、交通など、県民の暮らしを支えるサービスの維持向上。デジタル技術の活用や高度外国人材の育成・定着、有償ボランティア等により、人手不足への対応とサービス向上に向けた変革を進めます。

- 「ふ、くい介護テクノロジー・業務改善支援センター」において、介護職員の負担軽減や職場環境改善のための**介護ロボットやICT機器の導入・活用**を推進

介護テクノロジー（介護ロボット・ICT機器等）の導入を促進するため、モデルとなる事業所を9事業所選定し、専門家による伴走支援・成果報告会を開催するとともに、約160の介護事業所の介護テクノロジー等の導入を支援しました。



伴走支援成果報告会

- 「福井県建設DX推進行動計画」を策定し、ICT活用工事の拡大や電子納品のオンライン化等により**公共事業の生産性を向上**

県内企業へのアンケート調査を行い、「福井県建設DX推進連絡協議会」の議論を踏まえ「福井県建設DX推進行動計画（2026～2030）」を策定しました。



ICT活用工事 イメージ

- へき地等における**医療MaaS**（移動車両によるオンライン診療）の導入に向けた検討

医療MaaSの実証実験に向け、公立小浜病院、市立敦賀病院、県医師会、嶺南3医師会で構成し、嶺南6市町がオブザーバーとして参加する検討会を年3回開催しました。

病院や市町への意向調査等を踏まえ、R8 実証実験の候補先を決定しました。



医療 MaaS 車両 イメージ

- 海外の人材育成機関と連携し、**福井県の地域性などを学んだ高度外国人材等の受け入れ**を推進

海外人材育成・送り出し機関等と連携し、本県の魅力等を学ぶ福井県専門クラスを設置することで、県内企業のニーズに合った優秀な外国人材を本県に送り出す体制を整備しています。



福井県専門クラス

- **小さな林業**（自伐型林業と中山間地域の資源等を活用した様々な副業）の展開により「**山村地域の活性化**」を推進

自伐型林業大学の運営や、半林半Xの活動等を支援してきた結果、自伐型林業実践者が61人から71人に増加しました。

また、自伐型林業を契機として、4名が県外から県内に移住し、山村地域の活性化に繋がっています。



令和7年度開校式

- 漁家民宿を拠点としたブルー・ツーリズムの開発・磨き上げや漁港を有効活用した販
わい・交流の場づくりによる**海業の推進**

各市町に海業担当者を設置し推進体制を整えました。

11月に高浜町で「海業推進全国サミット」が全国で初めて地方で開催され、海業の機運を醸成しました。



海業推進全国サミット in 高浜

(4) 次世代ファースト戦略

「ひとが活躍」「まちに活気」「くらしに活力」のプロジェクトに横串をさして、次世代応援の施策を体系化し、社会全体で応援することにより、こども・若者や子育て世代から「選ばれるふくい」を実現します。

○若い世代に選ばれる地域社会の構築

多様な価値観が大切にされ、活躍を応援し合える社会を形成。ふるさとの魅力を知り、自分の未来を拓くきっかけとなる地域とのつながりをつくります。

■ 企業や地域等における**固定的な性別役割分担意識**など**無意識の思い込み**に気づき、相互理解し合える機運を醸成

アンコンシャス・バイアスへの気づきを促すため、企業向け研修を開催し、2,072名が参加したほか、鯖江市と連携して自治会向けのセミナーを開催するなど、広く県民への周知を図りました。



地域向けセミナー

■ 様々な分野で自分らしく活躍する女性や女性の活躍を応援する男性リーダーなどを発信し、**性別に捉われない自分らしい生き方**を後押し

様々な分野で活躍する女性や女性の活躍を応援する男性リーダー計10名をロールモデルとして発信したほか、幅広い分野でチャレンジする女性個人・女性グループ計12名・団体を表彰し、自分らしい生き方・活躍を後押ししました。



女性のチャレンジ賞授賞式

■ 課題解決に向けた企画提案型の学習を推進し、各地域のよさを発信するため、「ふるさと福井 CM コンテスト」や「ふるさとの学びフェア」を開催

「ふるさと福井CMコンテスト」に、小中学校、高校から240作品の応募がありました。
また、2月に開催した「ふるさとの学びフェア」では、小中学校18校がふるさと学習の成果を発表し、ふるさとの良さを再認識しました。



ふるさとの学びフェア

○「働きがい+働きやすさ」の魅力ある仕事の創出

新たな挑戦や成長の機会を広げる仕事づくりを推進。若い世代の所得向上を目指すとともに、家族との時間や仕事と生活のバランスを大切にできる職場環境を整えます。

■ 女性のためのリーダー育成研修の開催などにより、**働く女性のきめ細かなキャリア形成**を後押し

女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」の3コースには、過去最多の77社から129名が参加しました。

また、新たに北陸三県の研修生同士の交流会を開催し、女性のキャリア形成を後押ししました。



北陸三県女性リーダー研修生交流会

■ 創業に係る資金の支援のほか、学生・若者への起業に関する講義や女性向け創業セミナーを開催し、**若者や女性の起業**を促進

若者の起業を支援するため、ビジネスプラン作成から創業までの伴走支援を実施し16名が参加したほか、商工団体を通じて女性向け創業セミナーを開催し42名が参加しました。



企業に係る伴走支援

■ セミナー等による周知や企業への伴走支援により、公正な賃金に基づいた短時間正社員等の**多様な働き方導入**を推進

短時間正社員等の多様な正社員制度の導入に関するセミナーやワークショップを開催するとともに、意欲的な企業8社に対して社会保険労務士による伴走支援を実施し、多様な働き方の導入を後押ししました。



ワークショップの様子

○結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現

結婚や子育ての希望など、一人ひとりが思い描く暮らしの実現を応援。子育てのよろこびを実感し、若者が前向きになれるよう、子育て県「ふく育県」の魅力を広げます。

- 結婚を希望する若者の恋愛気運の醸成や出会いの機会の拡大などにより、**恋愛から結婚までの切れ目ない応援を充実**

若者の恋愛応援サイト「ノックノックふくい恋愛診断の扉」の開設や、地域おこし協力隊・県支援団体による若者交流イベントの実施により、延べ348人の出会いを創出。また、「ふく恋」AIマッチングシステムの活用により、累計成婚件数は100組に到達し、成婚件数は36組と過去最高の件数を記録しました。



ふく恋成婚100組セレモニー

- 「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の一層の利用促進と併せ「すみずみ子育てサポート事業」の充実を図り、**地域全体で子育てを支える体制を強化**

「ふく育さん」や「ふく育タクシー」の共通利用券を、新生児世帯や育児負担の大きな世帯など計4,665世帯に配付したほか、訪問型シッターサービスの助成を拡充し、「ふく育さん」の利用実績が過去最高の3,410件となりました。



「ふく育さん」利用の様子

- 県内17市町と連携して全天候型遊び場を整備し、**いつでも安全に、楽しく遊べる子育て環境づくり**を推進

天候にかかわらず子どもたちが安心して遊ぶことができる全天候型の遊び場が、令和7年度中に3市町（坂井市、永平寺町、若狭町）で完成し、事業開始から計6市町での開所となりました。



若狭町「あそまなびの森」

○進学・就職・移住の選択肢の拡充

地域や企業の魅力を発信し、地元での進学や就職、UIターンなど若者の進路選択を応援。移住希望者が福井での暮らしを身近に実感できる取組みを充実します。

- 県立大学に「**地域政策学部（仮称）**」を新設し、6学部6キャンパスの特性を活かした地域連携により魅力を向上

令和7年6月に文部科学省への設置届出が受理され、「地域政策学部」の設置が正式に決定。令和8年4月の学部開設に向け、学部棟「福井まちなかキャンパス」の設計、入学者選抜など、準備を進めました。



福井まちなかキャンパスイメージ

- ふくアプリを活用し、高校在学中から進学、就職、子育て期まで、地域と学生がつながり続け、「**福井で働き、福井で暮らす**」ことをイメージできる仕組みを構築

ふくアプリ内に若者向けコンテンツサイト「ハピBASE」を10月に設置し、高校生や大学生等に登録を促進することにより、大学進学や就職後も地元就職支援策や子育て支援策を発信できる仕組みを構築しました。



年齢や居住地に応じた情報発信

- 都市部の親子連れが本県の子育て環境を体験しながら、長期間滞在できる「**ふく育県留学**」の取組みを県内に拡大し、子育て世代の移住を推進

福井市の「ふくいde親子暮らし留学」、坂井市のお試し移住ハウスでのふく育県留学など、県内3市町で都市部からの親子を受け入れ、本県の優れた子育て環境を体感してもらいました。



「ふくいde親子暮らし留学」（福井市）

各分野の主要政策別 令和7年度の主な成果

<5つの分野>

○将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行

個性を伸ばす (人材力)	成長を創る (産業力)	楽しみを広げる (創造力)	住みやすさを高める (地域力)	ともに進める (総合力)
ふくい人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代を充 実させる「健幸文化」 の創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

	政策	重点施策	施策	
個性を伸ばす (人材力)	1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」や、探究心を持って学びを「楽しむ教育」、郷土の歴史、自然、文化、人々等とつながり学ぶ「ふるさと教育」を進め、子ども一人ひとりを大切にする「子どもが主役の教育」を推進します。		○自らと福井の将来につながる学びの推進 ○誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進	・自らと福井の将来につながる学びの推進 ・誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進 ・人生を楽しく豊かにする学びの推進 ・基本となる学校環境づくり ・私立学校の振興
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり 本県の特徴を活かした教育・研究の推進、魅力的な学びの場の創出、産学官連携の強化により、地域に貢献したいと思う意欲を醸成し、地域のために積極的に行動できる人材や、生涯活躍・成長を続け、ふくいの未来を創る人材を育成します。		○魅力的な大学づくり ○地域拠点校や職業系高校の魅力向上	・地域に愛着を持ち、積極的に貢献する人材の育成 ・産学官等の連携強化による地域人材の育成 ・生涯活躍・成長を続ける人材の育成
	3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現 多様な価値観や考え方を認め合える寛容な社会を実現するとともに、性別や年齢、国籍、障がいの有無などに関わらず、県民一人ひとりが自分らしく活躍できる社会を目指します。		○多様な個性や能力が輝く寛容な共生社会の実現 ○女性、若者が自分らしく活躍できる社会の実現	・多様な価値観が認められ自分らしく生きられる社会の実現 ・女性の「なりたい自分」や「かなえたいキャリア」の実現に向けた環境づくり ・若者のチャレンジ応援 ・社会貢献活動の参加拡大 ・多様な人材が活躍する共生社会の実現
	4 こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進 家庭や地域のつながりを大切にす福井らしい子育て環境を活かしながら、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢や希望がかなう社会づくりを進めます。さらに、社会全体でこどもの“よろこび”や子育ての“よろこび”を育み、共感し合う「ふく育県」を実現します。		○一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない「ふく育安心モデル」 ○一人ひとりの夢や希望がかなう、幸せを実感できる「ふく育希望モデル」	・こどもの安全・安心を確保 ・安心の子育て環境を確保 ・結婚や子育ての希望を応援 ・社会全体でこども・子育てを応援
成長を創る (産業力)	5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化 水稲、園芸、畜産、林業、漁業等における担い手や大規模事業者を育成し、本県の農林水産業の長所や農山漁村の魅力さをさらに伸ばすとともに、新幹線開業等によるチャンスを活かして、新たに本県を訪れる人々や県民を巻き込んだ多面的な政策を展開します。		○稼げる農林水産業の展開 ○農山漁村コミュニティの維持・活性化	・希望あふれる次世代の担い手を育成 ・ふくいの農林水産物のトップブランド化 ・魅力と活力あふれる農山漁村コミュニティの維持 ・ふくいの農林水産物への理解促進
	6 創業・新事業展開の推進 北陸新幹線開業により企業や人材の交流が拡大している機を捉え、地域企業と県内外の人材との共創により、社会課題の解決や新たな価値の創出に取り組む「福井型エコシステム」を充実・強化します。		○地域のスタートアップ創出 ○全国のスタートアップとの共創 ○セーフティネットの充実	・スタートアップの創出・共創 ・県外からの投資や人材の呼び込み促進 ・アンテナショップを活用した県産品販路拡大
	7 未来志向型の産業革新 本県の地域産業が蓄積してきた独自技術を発展させ、未来社会を支える新たな価値を生み出す技術開発を推進するとともに、社会経済情勢の変化に対応する持続可能な地域産業を確立します。		○脱炭素技術の開発と資源循環モデルの構築および産業化 ○国内を代表する宇宙産業拠点の形成 ○ヘルスケア産業からウェルビーイング産業への拡大	・持続可能な「未来創造産業」の創出 ・地域産業の持続的な企業経営の実現 ・伝統工芸や地場産業の振興 ・地域産業を支える人材の確保・育成
	8 世界のふくいファンを拡大 世界市場につながるネットワークの充実・強化を図り、海外との人・モノ・情報の往来を活発化させるとともに、世界市場の取込みに向けて、グローバル人材の育成・就労機会の拡大に取り組みます。		○福井の「食」の魅力発信 ○福井が誇る「伝統工芸」の奥深さの発信 ○モノづくりふくいの「技術」と世界の協働 ○外国人が暮らし続けたいと思える多文化共生先進地の実現	・ふくいの農林水産物を世界へ ・魅力あるふくいの伝統工芸や技術を世界に伝える ・港を活かした貿易・交流の拡大 ・外国人が安心して暮らし、働ける環境づくり

	政策		重点施策	施策
楽しみを広げる (創造力)	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 北陸新幹線開業によるにぎわいを一過性のものとせず、今後の中部縦貫自動車道県内全線開通によるさらなるアクセス向上なども見据え、観光地としての価値を今以上に引き上げるとともに、人材育成や投資の促進により将来にわたり持続可能な観光地域づくりを進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○観光地・宿泊施設のさらなる魅力向上 ○未来につながる持続可能な観光地づくり ○インバウンド誘客プロモーションの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地としての価値の向上 ・未来につながる持続可能な観光地域づくり ・世界に選ばれる魅力づくり ・みんなが幸せになる観光の推進
	10 交流を広げる基盤整備 北陸新幹線や中部縦貫自動車道などの高速交通・物流ネットワークの整備により、県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進します。また、交流の拡大にあわせ、官民共創によるまちづくりや持続可能な二次交通の整備を進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通ネットワークの維持・活性化 ○にぎわいを生み出すまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線など高速交通網の整備促進 ・持続可能な公共交通ネットワークの構築 ・地域鉄道の維持・活性化 ・交流拠点を中心としたまちづくり ・飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用 ・WAKASARIフレッシュエリアの形成
	11 ふくい移住・定住の促進 Uターン、県内定着支援を強化し、関係人口の拡大や多様な福祉との「関わり」から、地域とのつながりや県外に出た人とつながり続ける仕組みを構築します。また、北陸三県や新幹線沿線自治体とも連携してUターンを促進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○高校から子育て期までつながり続けるUターン支援 ○「選ばれるふくい」の移住定住政策 ○関係人口の創出・拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携による学生の県内就職の応援 ・「選ばれるふくい」の移住定住政策 ・関係人口の創出・拡大
	12 文化芸術・スポーツ力の強化 悠久の歴史に育まれた暮らしや豊かな自然と風土を活かした文化芸術に触れ、楽しみ、自ら創造・発信する主体的な活動や、県民誰もが夢や感動を共有し、健やかな人生を送れる多様なスポーツ活動・交流の推進により、県民の幸せ実感を向上します。		<ul style="list-style-type: none"> ○県民主体の文化芸術活動を応援 ○文化芸術の推進 ○スポーツによる交流拡大・地域活性化 ○トップアスリートの競技活動支援・Uターン推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民主体の文化活動や表現・参加機会の拡大 ・文化芸術の次世代育成と保存・継承・活用 ・文化芸術による交流機会の拡大 ・ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進 ・国民スポーツ大会や国際大会等活躍する選手の発掘・育成・強化 ・福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進 ・誰もがスポーツに参加できる「場づくり」の充実
住みやすさを高める (地域力)	13 人生100年時代の充実生活応援 すべての県民が活躍し続けられるよう、生活習慣の改善による健康づくりを推進するとともに、若者・現役世代に加えて、シニア世代のチャレンジ応援や生きがい活動の選択肢を拡充し、健康長寿ふくいを推進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○「歩いて健康維持」と「適切な食塩摂取」による生活習慣改善 ○シニア世代の活躍の場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善 ・地域における全世代のチャレンジ・活躍を応援 ・県全体で進める健康づくり
	14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の充実 地域医療を取り巻く環境変化を踏まえ、医療・介護・福祉の連携を強化して地域包括ケアシステム体制を構築します。また、地域福祉の担い手のつながりや居場所づくりにより共助の力を活性化し、住民の福祉ニーズに対する支援を行き届けます。		<ul style="list-style-type: none"> ○支援が届きにくい地域住民への支援体制の強化 ○強度行動障がい児者、医療的ケア児者への支援充実 ○DXによる医療の質の向上・格差の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域完結型の医療体制の確立 ・医療・福祉現場でのDX推進 ・「次世代型包括ケアシステム」の推進 ・福祉の担い手不足への対応 ・複合化・複雑化した福祉ニーズへの対応
	15 豊かで美しいふくいの環境の継承 2050年のカーボンニュートラルに向けて、エネルギー源の転換や再生可能エネルギーの導入を進めるほか、自然と共生する社会づくりや自然環境の保全、循環型社会の推進により、本県の環境の豊かさや美しさを守り育て、次世代に継承します。		<ul style="list-style-type: none"> ○温室効果ガス排出量49%削減に向けた実践 ○脱炭素化に資する「価値づくり」への挑戦 ○スマートエリアの形成 ○気候変動「適応策」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会の実現と気候変動への対応 ・エネルギーを活用した地域の活性化 ・自然と共生する社会づくり ・環境に配慮した暮らし
	16 防災・治安先進県ふくいの実現 頻発・激甚化する自然災害に対し、つながり助け合うコミュニティを形成しながら自助・共助の力を高めるとともに、県土強靱化を推進し、万全の備えを期します。また、犯罪や事故等に巻き込まれない安心して暮らせる社会の実現を目指します。		<ul style="list-style-type: none"> ○地域一体で進める防災力の強化 ○デジタル技術を活かした防災DXの推進 ○事前防災対策による県土強靱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と技術による地域防災力の向上 ・災害に強く、安心して暮らせるふくいの基盤の構築 ・県民を守る犯罪・事故等の対策 ・県民の安全最優先の原子力政策 ・拉致問題への対応
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営 徹底現場主義の考え方にに基づき、県民・企業・団体・市町との協働を進めるとともに、官民共創による政策形成システムの強化や安定した行財政運営など、将来像の実現に向けた県民主役の県政を推進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○官民がつながり、チームふくいを実現 ○未来をデザインする「政策オープンイノベーション」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッドを推進し、官民共創で地域課題を解決 ・市町協働を深化し、地域の未来づくりをバックアップ ・便利でやさしいDXにより、県民とのつながりを創出 ・健全財政の堅持 ・政策オープンイノベーションの推進
	18 広域連携の強化 北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網等の整備に伴い、増加が見込まれる人・モノ・情報の交流促進をはじめ、広域的な医療体制の整備や激甚化・頻発化する災害への対応力を強化するため、県境を越えた緊密な連携体制を構築します。		<ul style="list-style-type: none"> ○沿線自治体等と連携した高速交通網等の整備促進 ○広域連携の強化による大規模災害への対応力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携による高速交通網等の整備促進 ・広域連携による防災・医療体制の強化 ・広域連携による交流の拡大 ・自治体ネットワークによる政策立案と提言

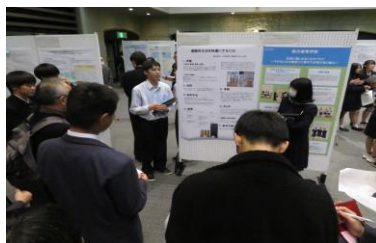
政策1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進

令和7年度の主な成果

【施策1-1】自らと福井の将来につなげる学びの推進

地域を学び、地域の魅力に気付くふさと教育を推進し、「ふるさと福井CMコンテスト」では小中学校、高校から240作品の応募があり、地域の魅力発信を通じて学びを深めました。

また、高校生の探究学習を推進するため、ふくい産業教育フェアや高校生探究フォーラムを嶺北、嶺南の2会場で開催し、生徒同士の交流や地元企業等から助言指導を受ける場を提供するとともに、高校生が地域課題等に対し解決策を提案してチャレンジする姿勢を表彰する高校生チャレンジアワードを開催しました。



高校生探究フォーラム

【施策1-4】基本となる学校環境づくり

全県立学校におけるメイン体育館への空調整備に向け、13校で設計に着手するとともに、6校で工事を行いました。また、デジタル環境の高度化を図るため、県立高校の全ての普通教室でWi-Fiを更新するとともに、教室でタブレットを利用する約8割の特別教室にWi-Fiを設置しました。

仕事にやりがいと誇りをもち、チャレンジを楽しむ教職員を増やすため、教職員・子どもが生き生きと活動する様子や教育行政の取組を積極的に発信するとともに、「ふくい教育チャレンジアワード」を開催し、新たな挑戦に取り組む教職員を応援しました。



ふくい教育チャレンジアワード

【施策1-2】誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進

学校に行きづらい子どもたちが安心して学ぶことができる居場所づくりとして「校内サポートルーム」を拡充し、小中学校73校に支援員を配置しました。

また、ポジティブ教育プログラム体験ワークショップを開催するなど、お互いを尊重し合う心や自己肯定感を育む「ポジティブ教育」の充実を図りました。



ポジティブ教育プログラム
体験ワークショップ

【施策1-5】私立学校の振興

各学校が取り組む特色ある教育活動や学業・スポーツ・文化活動を支援し、魅力ある学校づくりの推進を図りました。また、県内の私立高校における職業系学校・コースの充実や地元定着を促進する取組み、ならびに県内の専修学校が行う入学者確保や地元就職を促進する取組みに対して支援を実施しました。



外部講師による探求学習

【施策1-3】人生を楽しく豊かにする学びの推進

休日の中学校部活動の地域移行を推進するため、関係者との連絡調整等を行う県総括コーディネーターを配置し市町の取組みを支援するとともに、地域の指導者を対象とした指導者研修会を開催し、90%の部活動において休日部活動の地域移行を達成しました。

県立図書館に電子書籍サービスを導入し、パソコン等から約1万点のコンテンツを検索・閲覧することが可能となるなど、本と出会い、読書を楽しむ環境づくりを進めました。



地域クラブでの活動

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

令和7年度の主な成果

【施策2-1】地域に愛着を持ち、積極的に貢献する人材の育成

県立大学では、令和8年4月の「地域政策学部」開設に向けて、「福井まちなかキャンパス」の設計や、オープンキャンパス等を通じた学部PRなどの準備を進めました。また、県内高校から県内大学へ進学する学生を対象に、一人暮らしにかかる家賃支援や通学にかかる交通費支援などの経済的支援を行うとともに、地域枠の創設を促進するなど、県内進学 の促進にも取り組みました。

さらに、県立高校19校において地域デザイン講座を開催するなどライブデザイン教育を推進し、地域政策や将来構想等を学ぶことにより、地域への愛着や希望を高める教育を推進しました。



福井まちなかキャンパスイメージ

【施策2-3】生涯活躍・成長を続ける人材の育成

県内高等教育機関と産業界等が連携し、産業等のニーズに合わせ、社会人を対象としたリスキリングプログラムを20講座開催しました。また、新たにオーダーメイドのリスキリング講座の開催にも取り組みました。

地理的・時間的な制約を抱える県内企業従業員を主な対象者として、幅広い分野の動画をオンラインで視聴できる機会を提供し、延べ182名の県内企業従業員・個人に対してリスキリング機会を提供しました。



リスキリングプログラム

【施策2-2】産学官等の連携強化による地域人材の育成

県内就職につながる教育プログラムを県内3高等教育機関で始めたほか、県内大学での学びと県内企業のつながりを知るワークショップ「Fukui Feel's Fun」を3回実施し、高校生54人が参加しました。

また、ふくい産業教育フェアを嶺北・嶺南の2会場で開催したほか、職業系高校のPR冊子を制作し配布するなど、中学生やその保護者等に対する職業系高校の魅力発信を強化しました。



Fukui Feel's Fun

政策3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現

令和7年度の主な成果

【施策3-1】多様な価値観が認められ自分らしく生きられる社会の実現

アンコンシャス・バイアスへの気づきを促すため、企業向け研修を開催し、2,072名が参加したほか、鯖江市と連携して自治会向けのセミナーを開催するなど、広く県民への周知を図りました。

また、共家事や「ラク家事」を促進して「ゆとり時間」の創出につなげるため、家事診断サイトの作成・周知や家事代行モニターキャンペーンを実施しました。

さらに、自分らしい活躍を後押しするため、様々な分野で活躍するロールモデルを発信しました。



ロールモデルの発信

【施策3-2】女性の「なりたい自分」や「かなえたいキャリア」の実現に向けた環境づくり

女性の積極的な採用・育成・登用を進める「ふくい女性活躍推進企業」は1,026社となり、1,000社を達成。また、女性登用で顕著な実績をあげた企業51社に「女性登用アワード」を授与しました。女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」では、過去最多となる401名が参加し、女性のキャリア形成を後押ししました。

また、短時間正社員等の多様な正社員制度の導入に関するセミナーやワークショップを開催するなど多様な働き方の導入を後押ししました。



ハッピーキャリア“縁”カレッジ修了式

【施策3-3】若者のチャレンジ応援

ワクワクチャレンジプランコンテストでは、若者をはじめとする幅広い世代から提案のあった地域課題の解決や地域活性化につながるプランについて19件を採択してチャレンジを資金面から後押ししました。県内で活躍する若者7名によるプレゼンやパフォーマンス・交流会を実施するチャレンジ応援フェスを開催し、100名が参加しました。

起業家精神を持った若者を増やすため、大学生を対象とした先輩起業家による起業家教育（講義）を県内の大学・高専と連携して9回実施し、980人が参加しました。



ワクワクチャレンジプランコンテスト

【施策3-4】社会貢献活動の参加拡大

ボランティア促進に関しては、社会貢献支援ネットについて検索機能などを充実させて「ふくボラナビ」としてリニューアル。令和7年度の間覧数が昨年度に比べ約2割増加し17,103回となりました。

災害ボランティアに関しては、能登半島地震におけるボランティア活動の振返りや本県の被災者支援体制の強化を考えるシンポジウムなど、人材育成や機能強化に資する7件の研修等を実施しました。



災害ボランティアシンポジウム

【施策3-5】多様な人材が活躍する共生社会の実現

県内デザイナーの伴走支援により、3か所の障がい者就労施設において高付加価値の独自商品を開発したほか、3回目となるふくい農福ビジコンの開催や就労環境の整備支援を行い、農業分野における就労機会を拡大しました。

県内企業40社に対して障がい者雇用にかかる伴走支援を実施するとともに、企業見学バスツアーや、障がい者130名に対する短期の就業体験を実施することより、50名の障がい者の就労を支援しました。



高付加価値商品の開発

政策4 こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進

令和7年度の主な成果

【施策4-1】こどもの安全・安心を確保

Webによるアンケート調査や専門家による訪問、出前講座の機会を捉えた対面での意見交換など、様々な手法によりこども・若者への意見聴取を実施しました。
また、「ふく育さん」や「ふく育タクシー」の共通利用券を、新生児世帯や育児負担の大きな世帯など計4,665世帯に配付しました。



中学校での出前講座の様子

【施策4-3】結婚や子育ての希望を応援

「ふく恋」AIマッチングシステムでは、成婚件数累計100組に到達し、令和7年度は過去最多となる36組に至りました。

また、若い世代が将来のライフプランを考え、日々の生活や健康と向き合う機会を提供するため、10月にふくいプレ妊活健診を開始し、将来の妊娠・出産を希望する102名の若者の健康管理を支援しました。



ふく恋成婚100組セレモニー

【施策4-2】安心の子育て環境を確保

「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の共通利用券を育児負担の大きな世帯等に配付したほか、訪問型シッターサービスへの助成を拡充し、「ふく育さん」等を利用しやすい環境整備を進めました。保育人材の確保については、保育士試験対策講座を開催しました。

また、様々な環境におかれた子育て世帯が孤立しないよう、こども食堂や市町等に対する研修会を開催し、より多くの支援を必要とするこどもを把握し、支援につなげる体制を強化しました。



「ふく育さん」利用の様子

【施策4-4】社会全体でこども・子育てを応援

10月に若狭町で新たな全天候型遊び場「あそまなびの森」、12月に永平寺町で「えいぱーく」、3月に坂井市で「さかいキッズパーク」が開所し、県が整備を支援する全天候型遊び場が計6か所となりました。

また、令和6年度の県内企業の男性育休取得率は過去最高の44.9%となり、男性育休を促進する企業向け奨励金の申請件数も、前年度より97件多い343件となりました。



若狭町「あそまなびの森」

政策5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化

令和7年度の主な成果

【施策5-1】希望あふれる次世代の担い手を育成

農業では、経営改善指導などによりリーディングファームを4経営体育成するとともに、インドネシア農業省と覚書を締結し、優秀な人材を確保できる体制を整備しました。
林業では、新たに福井県の林業の魅力を紹介する動画を制作し、県内外に向け発信することで、担い手の確保に繋がりました。
水産業では、新たに26経営体がスマートCTDや定置網リアルタイムブイなどのスマート技術を導入し、操業の効率化および収益性の向上に取り組んでいます。



福井県の林業の魅力PR動画

【施策5-2】ふくいの農林水産物のトップブランド化

都内百貨店等での生産者による対面販売や首都圏大型量販店でのいちほまれフェアの開催により、いちほまれの販売店舗が新たに約400店舗拡大しました。
北陸新幹線を使って甘えびなどの鮮魚を直送し、首都圏の飲食店や寿司屋などで福井県の新鮮な魚を食べることができる体制を構築しました。
首都圏・軽井沢でのレストランフェアの開催（85店舗）や、高級レストランのシェフ等を県内産地視察に招聘するなど、本県食材の魅力を県内外にPRしました。



首都圏でのいちほまれフェアの様子

【施策5-3】魅力と活力あふれる農山漁村コミュニティの維持

県・市町・JAが組織する集落営農救援隊の活動により、14組織について人材確保などの課題を支援しました。
鳥獣害対策コーディネーターの設置やICT技術を活用した電気柵遠隔操作システムの導入支援などによって集落や農作物を鳥獣害から守り続けています。
自伐型林業大学の運営や、半林半Xの活動等を支援した結果、自伐型林業を契機として、4名の方が県外から県内に移住し、山村地域の活性化に繋がっています。



令和7年度自伐型林業大学の開校式

【施策5-4】ふくいの農林水産物への理解促進

官民共創による地域課題解決と付加価値向上を目指すプラットフォームとして、全国に先駆けて、7月に「福井県 農林水産 地方創生センター」を設立しました。関係4市町が有機農業を核とした事業化を検討しており、小浜市についてはプロジェクトチームが始動しました。
6月に総合グリーンセンターでみどりと花の県民運動大会を開催し、10月には福井駅前でも農林水産物や食育をPRし、消費者の理解醸成と県産品の利用拡大に努めました。



全国初「福井県農林水産地方創生センター」の設立

政策6 創業・新事業展開の推進

令和7年度の主な成果

【施策6-1】スタートアップの創出・共創

若者の創業を支援するため、ビジネスプラン作成から創業までの伴走支援を実施し16名が参加しました。
また、創業や事業拡大に係る補助事業やサービスの利用を通じて21件の企業を支援しました。
さらに、伴走支援参加者およびドローン関連事業者によるコミュニティが形成されました。



起業に係る伴走支援

【施策6-3】アンテナショップを活用した県産品販路拡大

「ふくい南青山291」を拠点とした新商品開発において、39プロジェクト54商品を支援しました。
「ふくい食の国291」では、新規商品の取扱い件数を約400点とさらに増やし、13市町と連携したフェアを開催するなどして飽きさせない店舗づくりを目指すことにより、来館者数が62万人に増加しました。
首都圏の高級スーパー等を展開する企業11社が福井フェアを開催し、県産品の販路を拡大しました。



市町フェア

【施策6-2】県外からの投資や人材の呼び込み促進

全国トップの手厚い支援制度をセールスポイントに年間約1,000件の企業訪問を実施したほか、「企業立地・港セミナーin大阪」を開催するなど様々な機会を捉え、本県の強みをPRしました。
この結果、高度人材やU・Iターン者の受け皿となる、本社機能や研究開発部門の拡張を伴う工場等の新增設案件16件が決定しました。



企業立地・港セミナーin大阪

政策7 未来志向型の産業革新

令和7年度の主な成果

【施策7-1】持続可能な「未来創造産業」の創出

ものづくり産業の付加価値向上を目的として、港湾施設の検査を容易にする水上ドローンの技術開発など、成長4分野（脱炭素関連技術、ヘルスケア、宇宙、ロボット）における10件の可能性調査や技術開発を支援しました。



水上ドローン

【施策7-3】伝統工芸や地場産業の振興

伝統工芸事業者に対し、新たに制作体験や工房見学を受け入れるための体制整備を5件支援しました。また、海外富裕層をターゲットとする旅行会社を招聘した現地視察を2回実施し、地域コンテンツの磨き上げを図りました。
繊維産業のサプライチェーンを守るため、専任サポーターが繊維企業を延べ165件訪問し、経営課題の解決に向けた後押しをすることで、2件の第三者承継の成約につながりました。



若狭塗の「研ぎ出し」体験の様子

【施策7-2】地域産業の持続的な企業経営の実現

商工会・商工会議所およびふくい産業支援センターにおいて、企業訪問による課題の掘りおこしなど、伴走型の支援を実施しました。

また、設備導入による作業効率の改善や無人店舗導入による省力化、新素材を活用した商品開発など、400件の付加価値を高める取組みを支援し、県内企業の収益向上を後押ししました。



新商品開発の打合せ

【施策7-4】地域産業を支える人材の確保・育成

県内企業の人材確保のため、モデル企業26社に対して採用コンサルタントによる採用力向上の伴走支援を行いました。

また、県内企業が抱える経営課題の解決を促進するため、22社に対して専門的な知識・技術を有する副業・兼業人材とのマッチングを支援しました。



採用力向上の伴走支援

政策8 世界のふくいファンを拡大

令和7年度の主な成果

【施策8-1】ふくいの農林水産物を世界へ

北陸三県で連携し、シンガポール、フランス、アメリカ（NY、ハワイ）、ブラジル、県単独で台湾、カンボジア等各地域において、スーパーやレストラン等で北陸・福井フェアを開催するなど、海外で本県農林水産物・食品をPRしました。
また、県産木材製品については、台湾などアジア圏でのセミナー・展示会の開催など販路開拓に取り組みました。



ニューヨークでの北陸三県フェアの様子

【施策8-3】港を活かした貿易・交流の拡大

既設定期航路の増便や新規航路の誘致に向けて、取扱貨物量の増大を図るため、新たに敦賀港を利用する荷主や物流企業に対する支援メニューの充実、年間約500件の企業訪問を実施し、新たに12社が敦賀港を利用しました。
また、敦賀港川崎松栄地区の係留施設の改良設計、受入レイアウト素案を作成し、関係者との協議に着手しました。



定期航路荷役の様子

【施策8-2】魅力あるふくいの伝統工芸や技術を世界に伝える

イタリア・ミラノで行われた世界最大規模のデザインの祭典「ミラノデザインウィーク」において、越前和紙、越前焼、越前漆器、若狭塗の作品を出展しました。会場内で行った越前和紙の紙すき体験は大盛況で、多くの来場者に本県の伝統工芸品の魅力をPRしました。



ミラノデザインウィークでの工芸品展示

【施策8-4】外国人が安心して暮らし、働ける環境づくり

外国人が安心して暮らせる環境を整備するため、外国人向けの一元的相談窓口である「ふくい外国人相談センター」を嶺北・嶺南に設置。10月には、同行支援や関係機関との調整・連携を専門的に行う「総合支援コーディネーター」を2名配置するなど相談体制を強化し、相談対応件数はのべ1,400件を超えています。
外国人労働者の受入れを支援するため、「FUKUI外国人材受入サポートセンター」において企業、外国人の相談に対応。また、外国人労働者の労働・生活環境改善に係る費用を62社に対して支援し、県内企業への定着を図りました。



ふくい外国人相談センター

政策9 北陸新幹線効果を最大化・持続化

令和7年度の主な成果

【施策9-1】観光地としての価値の向上

東尋坊の魅力向上のため、交通広場・アクセス広場の整備や駐車場一元化、既存商店街の改修等に対し支援するとともに、マルシェの開催（約4,500人参加）といったソフト事業への支援を行いました。

また、大阪・関西万博における恐竜王国福井のPRや開館25周年記念特別展の開催、3面ダイノシアター新作「夜の博物館編」の公開などにより、過去最高となる129万人が恐竜博物館に来館しました。



東尋坊（完成イメージ）

【施策9-2】未来につながる持続可能な観光地域づくり

インバウンド向けツアーの造成や地域の伝統・文化を体験できるコンテンツの造成など、新たな観光コンテンツの開発や既存コンテンツの磨き上げを12件支援しました。

また、FTASに公開している観光オープンデータを生成AIが自動分析し、観光事業者レポートを配信する実証事業を行い、県内143者が参加しました。



FTAS（福井県観光データ分析ツール）

【施策9-3】世界に選ばれる魅力づくり

県内に宿泊し、観光地を訪れる旅行商品の造成を働きかけるため、香港の旅行会社に対して、県内の観光関連事業者と力を合わせた官民合同セールスを新たに実施しました。

また、インターネット上での本県の観光情報の充実や、SNS発信の強化に向けて、多言語観光情報サイトを全面刷新し、10月にオープンしました。



【施策9-4】みんなが幸せになる観光の推進

県内観光地で活動する観光ボランティアガイドの取り組みを紹介し、参加者が県内各地の魅力を再認識することを目的に「福井の語り部ガイド発表・交流会」を開催。66名が参加し、ガイドの資質向上を図りました。

また、観光事業者等に対し、講師派遣および観光ガイドとのマッチングを通じて、質の高いガイド付き旅行商品の造成を5件支援しました。



語り部ガイド発表会・交流会

政策10 交流を広げる基盤整備

令和7年度の主な成果

【施策10-1】北陸新幹線など高速交通網の整備促進

北陸新幹線小浜京都ルートについて、早期の認可・着工を実現するよう、沿線の関係者とともに政府・与党に強く要請しました。自民・維新による新たな与党整備委員会で、日本維新の会が提案した8ルートについて検証する方針が決定され、並行して沿線自治体等からのヒアリングを実施していくことが合意されました。現在、与党整備委員におけるヒアリングが順次行われています。

中部縦貫自動車道については、令和11年春の県内全線開通に向けて、九頭竜～油坂間の20橋の橋梁すべてが上部工に着手し、うち8橋が完成するなど工事が着実に進められています。

舞鶴若狭自動車道については、舞鶴東～小浜西間のトンネル7本のうち3本が着手され既に着手済みの2本と合わせ計5本のトンネル工事が進められるなど、全線4車線化に向けた工事が進められています。



若狭の未来を実現する会との面談



中部縦貫自動車道大野油坂道路



外国人運転士の受入に向けた検討会

【施策10-2】持続可能な公共交通ネットワークの構築

路線バスの運転士確保に向けて、運転体験会を県内3市町で開催したほか、全国で初めて運転士の待遇改善支援や県職員の兼業運転士による路線バス運行を実施しました。また、事業者や専門家などを交えて外国人運転士の受入に関する検討会を3回開催しました。さらに、事業者とともに先進事例の視察を行うなど、令和8年度以降の受入に向けて準備を進めています。

【施策10-3】地域鉄道の維持・活性化

福井鉄道・えちぜん鉄道に、駅窓口に行かなくても自宅からネットで定期券を購入できるサービスを導入するなど、利便性向上を図りました。

また、ハピラインのしきぶ駅が3月14日に開業、同日にダイヤ改正も実施され、主な利用者となる武生商工高等学校の学生の通学に配慮したダイヤで運行しています。



しきぶ駅開業

【施策10-4】交流拠点を中心としたまちづくり

福井駅周辺では、福井城坤櫓（ひつじさるやぐら）の復元に向け、お堀を埋め立てる仮設ヤード造成工事を完了させ、石垣補強工事等に着手しました。また、足羽川の河川敷（右岸：幸橋～泉橋間）等のライトアップを開始しました。敦賀駅周辺では、敦賀まちづくりアクションプログラムに基づき、市による神楽通りの再整備を支援し、3月に供用開始しました。



福井城坤櫓等復元工事（お堀の埋立て）

【施策10-5】飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用

福井港丸岡インター連絡道路については、用地取得や橋梁工事等を着実に進めるとともに、当該連絡道路と一体となって嶺北北部のネットワークを強化する福井森田丸岡線については、3月24日に部分開通するなど、物流・交流を支える基盤の整備を推進しました。

福井空港については、福井空港ビル再整備構想を策定し、新空港ビルの基本設計に着手するなど、機能強化・再整備を進めています。また、中型プロペラ機の試験飛行を実施するなど、空港利活用に取り組んでいます。



福井森田丸岡線



中型プロペラ機の試験飛行

【施策10-6】WAKASAリフレッシュエリアの形成

「青々吉日 TSURUGA WAKASA」ウェブサイトやSNSを通じて、敦賀・若狭の魅力を発信するとともに、台湾・香港のインフルエンサーを活用し、国外への情報発信を強化しました。

また、高級リゾートホテル等を公募で誘致する若狭湾プレミアムリゾート構想では、小浜市、高浜町、若狭町の3か所の公募対象地において優先交渉権者を決定し、事業化を目指した協議・調整を進めています。



エンゼルラインからの眺望

政策11 ふくい型移住・定住の促進

令和7年度の主な成果

【施策11-1】産学官連携による学生の県内就職の応援

UIターン奨学金返還支援や、授業において県内企業を紹介する大学連携講義、企業技術者と学生が交流する業界研修会の開催等により、県内企業の魅力に触れる機会を提供し、県内定着やUIターン就職を促進しました。



県内最大サンドーム開催「福井の合説」

【施策11-3】関係人口の創出・拡大

地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげる取組として、学生の長期滞在型キャンプの実施を支援しており、県内2か所（鯖江市、坂井市）において夏季キャンプ（8～9月）、春季キャンプ（2～3月）が実施されました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。



河和田アートキャンプ20周年記念式典

【施策11-2】「選ばれるふくい」の移住政策

若者や子育て世帯を意識した縦型ショート動画を制作し、SNSやインターネットを活用した情報発信をするとともに、移住意欲の高い都市部を中心に交流会やセミナーなどを開催し、本県への移住関心層の掘り起こしを進めました。



移住PR縦型ショート動画

政策12 文化芸術・スポーツ力の強化

令和7年度の主な成果

【施策12-1】県民主体の文化活動や表現・参加機会の拡大

福井県文化振興事業団内に専門スタッフを配した「ふくい文化創造センター」を開設し、アート活動実践団体に対する相談対応・助言などの伴走支援を強化しました。障がいの有無等に関わらず多様な担い手の作品を一同に展示する「まるまるつながるアートてん まる」を開催し、2,448人が鑑賞しました。



県民主体のアート活動

【施策12-2】文化芸術の次世代育成と保存・継承・活用

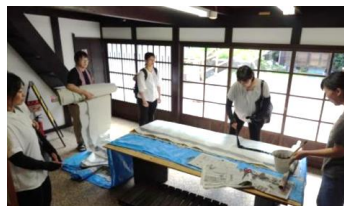
次世代の担い手育成のため、小学生から高校生を対象にした各種文化芸術体験プログラムを実施し、のべ約11,500人が参加しました。地域の伝統芸能等の保存団体による観光活用の取組みを専門業者とともに支援したほか、方言動画コンテストを開催し、福井の方言の魅力を広く発信しました。



ドラムサークル体験会

【施策12-3】文化芸術による交流機会の拡大

「熊川宿若狭芸術祭2025」を開催し、県内外からのべ7,000人を超える来場者が展示やコンサートを鑑賞しました。企業の文化活動促進に向けて、経済界と連携して勉強会を発足したほか、企業経営者等を対象とした文化芸術セミナーを4回開催し、のべ204名が受講しました。



熊川宿若狭芸術祭2025

【施策12-4】ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進

働き盛り世代や子育て世代・女性が日常生活の中で気軽に体を動かし、運動習慣を身につけられる環境づくりを目的に、県と市町が連携して「ふくいアクティブライフスタイル・プロジェクト」を実施しました。今年度は、県や市町の主催イベント、子育て支援センターにおいて、親子で楽しめる運動や初心者向けのヨガ教室などを開催し、延べ1,393名が参加しました。



ふくいアクティブライフスタイル・プロジェクト

【施策12-5】国民スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の発掘・育成・強化

ふくいジュニアアスリートアカデミーによる選手の発掘、競技団体が行う選手強化活動への支援、「スポジョブふくい」によるアスリートのUIターン就職支援を行いました。第79回国民スポーツ大会(わたSHIGAかがやく国スポ)では総合成績14位を獲得し、福井国体の開催後、5大会連続となる総合成績10位台を達成しました。



第79回国民スポーツ大会

【施策12-6】福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進

FUKUI RAYSでの合同研修会を通じてチーム間の交流を深め、スポーツコミュニティの結束力を高めました。また、オリンピックを含むトップ選手による女子レスリング合宿を誘致しました。さらに、3月29日に開催した「ふくい桜マラソン2026」では、国内外から出走した14,131人のランナーに、越前そばなどのご当地給食や県民ボランティア等によるおもてなしで、福井の魅力を強く発信しました。



ふくい桜マラソン2026

【施策12-7】誰もがスポーツに参加できる「場づくり」の充実

福井アリーナ(仮称)については、令和7年8月に事業計画案が公表され、10月には整備会社が設立されるなど、経済界が中心となり開業に向けた準備が進められています。アリーナは、スポーツに加え、コンサートやMICEなど多目的な活用が見込まれ、県内外から人を呼び込み、県内各地の観光地等への流れを生み出す起爆剤となることが期待されており、県としても福井市とともに応援していきます。



福井アリーナ(仮称)整備イメージ

政策13 人生100年時代の充実生活応援

令和7年度の主な成果

【施策13-1】生活習慣の改善

産学官等の連携・協働による食環境づくりの推進体として「ふくい省塩プロジェクト」を立ち上げ、適切な食塩摂取を啓発しました。また、低塩分で野菜たっぷりの認証メニュー「ふくい100彩ごはん」の利用を促進するキャンペーンを実施しました。

さらに、睡眠時間の確保や睡眠の質を向上する生活習慣を促す「ふくい快眠キャンペーン」を実施し、参加者の約9割が睡眠時間の延長や睡眠の質の向上を実感しました。



「省塩プロジェクト」キックオフ

【施策13-3】県全体で進める健康づくり

女性特有のライフステージの変化に伴う心身不調への対応、やせの害悪や適切な食事の選び方など、女性の健康に関する正しい知識の普及と生活改善に向け、県内事業所において看護師、理学療法士、管理栄養士などの専門職種による出前講座を開催しました。

また、3月に開催した「ふくい健康経営フォーラム」では、「女性の健康」をテーマに企業経営者や人事担当者向け講演を実施し、女性も働きやすい職場環境づくりを普及するとともに、県内の先進事例を発表し、参加事業所への横展開を図りました。



事業所向け「女性の健康」出前講座

【施策13-2】地域における全世代のチャレンジ・活躍を応援

シニア世代では、新たに生きがいづくり活動等を行うシニアグループ87団体に支援したほか、ステージ発表や、趣味の作品展を行う「シニア応援文化祭」を9月23日に実施し、シニア世代の活躍を促進しました。



シニア応援文化祭

政策14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の充実

令和7年度の主な成果

【施策14-1】地域完結型の医療体制の確立

専攻医等への奨学金貸与や福井大学医学部地域枠の定員拡大(R8～)などにより医師確保を推進するとともに、嶺南地域に勤務する医師への奨励金制度の創設や福井大学医学部との連携による医師不足医療機関への医師の派遣などにより、地域偏在対策を推進しました。

また、将来の医療体制を支える看護職員の確保のため、県内就業率の高い看護師養成所の中で、定員充足率が低い養成所が実施する施設の整備や広報活動の強化など学生確保に資する取組みを支援しました。



地域枠奨学生交流会

【施策14-4】福祉の担い手不足への対応

タイやミャンマーにおいて現地の教育機関等と連携した外国人介護人材育成を実施し、タイから19名、ミャンマーから7名の人材を受入れました。また、介護の魅力を発信するため、「介護の魅力発信アンバサダー」が高等学校を訪問し、生徒とのディスカッション等を実施するとともに、ショート動画やデジタルリーフレットを作成し、SNS等で発信しました。さらに、新たな介護人材確保の手段としてのスポットワーカーの活用を促進するため、「ちょこっと就労」就職面談会に合わせて相談ブースを設置しました。



デジタルリーフレット

【施策14-2】医療・福祉現場でのDX推進

嶺南地域では医療MaaS(移動車両によるオンライン診療)の実証実験に向け、関係団体による検討会を年3回開催しました。病院や市町への意向調査等を踏まえ、令和8年度実証実験の候補先を決定しました。

丹南地域では、福井市内の専門病院と丹南地域の中核病院がリアルタイムで脳卒中中のCT画像などを共有し、症例相談と重症度の判定ができるネットワークの運用を開始しました。



医療MaaS車両イメージ

【施策14-5】複合化・複雑化した福祉ニーズへの対応

地域づくりの関係者等を対象としたシンポジウムを開催し、有識者による講演や地域住民による共助の取組事例の紹介を行いました。

強度行動障がい児者の支援を行う専門の人材を養成するとともに、支援者間のネットワークを構築し、体制の充実を図りました。

医療的ケア児等の支援の総合調整を行うコーディネーターを養成するとともに、医療的ケア児等への学校での合理的配慮をテーマにシンポジウムを開催しました。



地域づくりシンポジウム

【施策14-3】「次世代型包括ケアシステム」の推進

東京大学との「第5期ジェロントロジー共同研究」の一環として「貢献寿命セミナー」を開催し、一般県民やフレイルサポーター、生活支援コーディネーターなど計91名が参加しました。令和6年度に実施した「日ごろの暮らしと健康に関する調査」の結果に基づき、社会とのつながりの中で生きがいや幸せを感じられる期間「貢献寿命」の考え方や、その延伸を支える要因等について理解を深める機会となりました。



貢献寿命セミナー

政策15 豊かで美しいふくいの環境の継承

令和7年度の主な成果

【施策15-1】脱炭素社会の実現と気候変動への対応

「カーボンニュートラル福井コンソーシアム」による産学官金民連携のもと、勉強会を15回開催（延べ800名以上参加）したほか、省エネ家電や太陽光発電の導入支援、市町の再エネ促進区域の設定に向けた県環境配慮基準の策定など、脱炭素化を推進しました。

また、県が率先して脱炭素化するため、2027年度までに県有施設のLED化率100%を目指し、更新作業に着手するとともに、LED化に伴うCO2削減効果を基にJ-クレジットを創出する取組みを開始しました。



J-クレジット創出に向けた協定締結式

【施策15-3】自然と共生する社会づくり

恒常的なクマと人との軋轢を軽減するため、市町職員、捕獲隊を対象に緊急銃猟訓練を大野市、南越前町で開催するとともに、捕獲隊を対象に県外射撃場での射撃研修やICTを活用したはこわなの捕獲技術研修を開催し、市町の捕獲体制の強化を支援しました。

また、10月には、新たにYahoo!防災アプリと連携し、より多くの方々にいち早く、クマ出没情報をプッシュ型で配信するサービスを開始したほか、猟友会と連携した狩猟体験ツアーを開催するなど、狩猟免許取得者を増やすための取組みも実施しました。



クマの緊急銃猟訓練

【施策15-2】エネルギーを活用した地域の活性化

原子力サイクルビジネスを行う新会社を令和7年8月に設立したほか、試験研究炉利活用に向けたニーズを踏まえた地元企業等による提言とりまとめ、スマートエリア形成に向けたVPP実証や地域の特色を活かしたスマートタウンの整備支援など、計画に掲げた主要プロジェクトを推進しました。

11月には国や電力事業者等が参加する嶺南Eコースト計画推進会議を開催し、中間報告として計画策定以来の社会状況の変化を踏まえた施策の追加を行いました。



試験研究炉の研究会による提言とりまとめ

【施策15-4】環境に配慮した暮らし

令和4年度より、河川、海岸等において、住民・企業・団体などが清掃を行う「ふくい海ごみゼロチャレンジ」を実施しています。令和7年度は、県内全ての市町と連携し、約17,000人の県民が清掃活動に参加しました。

循環型社会の推進に向けては、食品廃棄物を削減する食べきり・水切り・使い切りの「3きり」や資源物の「分別」について、メディアを活用して分かりやすく県民に伝え、実践のきっかけを創出することにより、ごみの減量化とリサイクルを推進しました。



ごみ減量チャレンジの実施

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

令和7年度の主な成果

【施策16-1】人と技術による地域防災力の向上

道路パトロールについて、AI画像解析を活用した道路変状検知システムを本格的に導入し、損傷箇所の早期発見に努めました。福井県域道路啓開計画について、関係機関との訓練を4回実施し、実効性の向上を図りました。

防災士を養成するため、嶺北と嶺南の2会場において、研修会（嶺北会場151名、嶺南会場144名）を実施しました。また、トイレトラックやトイレカーを7月に導入し、大規模な災害が発生した際に、全国各地から災害用トイレ車両の支援を受けられるネットワークに加盟しました。



トイレトラック

【施策16-4】県民の安全最優先の原子力政策

美浜地域の広域避難計画（緊急時対応）に基づき、国、県、市町が連携し、自衛隊のヘリ・船舶に加え、民間の遊覧船など多様な手段による住民搬送、LINEによる事故進展等の情報提供、屋内退避の周知動画などを取り入れた原子力防災訓練を実施しました。



海上自衛隊のヘリによる住民避難訓練

【施策16-2】災害に強く、安心して暮らせるふくいの基盤の構築

吉野瀬川ダム本体工事が完成したほか、浚渫・伐木等の治水対策、道路における斜面や雪対策等を着実に推進しました。特にインフラ老朽化対策については、橋梁をはじめとした道路施設や排水機場などの修繕を計画的に実施し、県土の強靭化を図りました。



吉野瀬川ダム

【施策16-5】拉致問題への対応

国に対し、拉致問題の一刻も早い解決を求める要望を行ったほか、北朝鮮人権侵害問題啓発週間におけるブルーリボンや啓発チラシ等を配布する街頭啓発、ショッピングセンターや県庁舎におけるパネル展およびアニメ「めぐみ」の上映会等を行いました。

加えて、県立高校4校で、拉致問題に関する出前授業を行いました。



拉致問題に関する出前授業

【施策16-3】県民を守る犯罪・事故等の対策

自治会等による防犯カメラ等の防犯インフラ整備を支援することにより、地域の自主防犯力向上を図りました。また、高齢者や若者などターゲットごとに効果的な媒体を活用した交通安全広報や、横断歩道の事前予告標示であるダイヤモンドマークを活用した横断歩道における歩行者優先意識の啓発を通じ、交通安全意識の向上を図りました。

令和8年度からの高校生の自転車通学時のヘルメット着用の許可条件化に向け、県立学校36校においてヘルメット着用についての取組みを推進しました。



自転車通学時のヘルメット着用

政策17 「チームふくい」の行政運営

令和7年度の主な成果

【施策17-1】クレドを推進し、官民共創で地域課題を解決

福井県職員行動規範「福井県職員クレド」について、クレドスピーチの対象者を本庁の所属長に拡大し、管理職の理解を促進するとともに、新たに「クレド川柳」の募集や発表、クレドの本庁舎階段蹴上への掲示を実施するなど、組織全体への周知強化に取り組みました。また、令和7年3月に構築した「官民共創ポータルサイト」を通じて、人材派遣を望む民間事業者と職員をマッチングすることにより、民間事業者等による地域課題解決を後押ししました。



福井県職員クレド

【施策17-4】健全財政の堅持

歳入確保として、宝くじの販売促進キャンペーンを実施しました。また、政策トライアル予算については、42事業実施し、令和8年度当初予算に24事業反映しました。18事業は、令和8年度も検討を継続します。さらに、行財政改革アクションプランに掲げる財政指標を達成する見込みです。



宝くじ販売促進キャンペーン

【施策17-2】市町協働を深化し、地域の未来づくりをバックアップ

市町職員がテレワークや、県職員との打ち合わせ等を気兼ねなく行うことができる場所として、県庁1階に新たな共創スペース「協働ルーム+」を整備し、8月から供用開始しました。



協働ルーム+

【施策17-5】政策オープンイノベーションの推進

官民共創組織「ふくウェル」を設置し、幸せ実感プロジェクトを推進。客観・主観の幸福度全国トップや、アワード受賞など幸福県としてのブランド向上に貢献しました。「ふくいSDGsパートナー」の連携を促進するため、マッチングサイトの創設や事業開発等の専門家との視察・商談イベント、繊維廃材の再資源化等に取り組みました。また、特定テーマにデザイナー等が長期伴走支援し、政策を練り上げる「政策デザイン共創」を新たに実施しました。



官民で幸せ実感プロジェクトを推進

【施策17-3】便利でやさしいDXにより、県民とのつながりを創出

「行政からの情報が分かりにくい・どこにあるか分からない」といった住民の声にこたえるため、県・市町が持つ行政情報を集約して発信するプッシュ型情報発信を行うことについて市町と合意し、令和8年度のサービス導入に向けて詳細を検討しました。また、デジタルデバインド対策として、市町と協働し、公民館等において、地域住民や市職員が講師となり、スマホ教室やスマホ相談会を開催しました。



スマホ相談会の様子

政策18 広域連携の強化

令和7年度の主な成果

【施策18-1】広域連携による高速交通網等の整備促進

北陸新幹線小浜京都ルートについて、早期の認可・着工を実現するよう、沿線の関係者とともに政府・与党に強く要請しました。自民・維新による新たな与党整備委員会で、日本維新の会が提案した8ルートについて検証する方針が決定され、並行して沿線自治体等からのヒアリングを実施していくことが合意されました。現在、与党整備委員におけるヒアリングが順次行われています。

中部縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道、福井港丸岡インター連絡道路等の整備促進について、沿線自治体等とともに国に対し働きかけ、予算確保等に結びました。



若狭の未来を実現する会との面談

【施策18-3】広域連携による交流の拡大

教育旅行の訪問先に福井が選ばれるよう、石川県、富山県、JR西日本等と連携し、関東圏や関西圏、中京圏の教育関係者や旅行会社に対し現地研修会を実施するとともに、首都圏の旅行会社と修学旅行商談会を実施しました。また、石川県や滋賀県等との連携により、海外の旅行博に共同出展し、外国人観光客の誘致に向けて広域周遊ルールなどをPRしました。



修学旅行商談会

【施策18-2】広域連携による防災・医療体制の強化

南海トラフ地震における応急対策職員派遣制度アクションプランにおいて、福井県は三重県の即時応援県となっており、三重県の総合防災訓練に参加し、現地調整会議開催による応援ニーズの確認訓練や福井県活動本部への情報伝達訓練の実施など、三重県との連携体制を確認しました。

また、本県において中部ブロックDMAT実動訓練に開催し、DMAT(災害派遣医療チーム)および関係機関との連携体制を確認し、災害対応力の強化を図りました。



三重県総合防災訓練への参加

【施策18-4】自治体ネットワークによる政策立案と提言

全国知事会議、近畿ブロック知事会議、中部圏知事会議に出席し、分散型国家の実現、エネルギー政策等について、国に提言を行いました。

本県で「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミット」が開催され、「安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生」等に関する「ふくい声明」が発表されました。

越前市において岐阜県知事と懇談し、伝統工芸の振興等に合意したほか、石川県七尾市において富山県・石川県知事と懇談し、社会減対策の連携強化等に合意しました。



全国知事会議in青森

＜巻末資料＞未来をつくる実践目標「チャレンジ2025」の結果概要について

令和7年度の分野別の進捗状況を以下のとおりまとめました。

福井県長期ビジョン実行プランにおけるKPI および「チャレンジ2025」における実践目標の進捗については、右の4区分に分類しています。

また、目標数から「判断時期未到来（－）」を除いたもののうち、90%以上進捗したもの（「◎」および「○」）の割合を達成度として算出しています。

進捗	内容	判断基準
◎	想定を超えて進捗	110%超え
○	概ね順調に進捗	90～110%
△	対策強化が必要	90%未満
－	判断時期未到来	数値の未公表

分野	長期ビジョン実行プランKPI 進捗						チャレンジ2025 実践目標					
	計	◎	○	△	－	達成度 (%)	計	◎	○	△	－	達成度 (%)
個性を伸ばす (人材力)	22	1	11	2	8	85.7%	82	18	45	10	9	86.3%
成長を創る (産業力)	18	4	8	2	4	85.7%	75	17	37	13	8	80.6%
楽しみを広げる (創造力)	20	2	9	3	6	78.6%	79	23	36	10	10	85.5%
住みやすさを高める (地域力)	22	8	6	2	6	87.5%	85	30	36	16	3	80.5%
ともに進める (総合力)	5	3	1	0	1	100.0%	19	10	7	1	1	94.4%
計	87	18	35	9	25	85.5%	340	98	161	50	31	83.8%

(令和8年4月末時点)